

各推進地区の取組について

義務教育課

1 平成26年度推進地区指定について

宮城県教育委員会では、本県の重点的取組の一つである「志教育」の推進・普及に係り、中学校区を単位とする7地区を推進地区として指定しました。

※推進地区

川崎町地区、松島町地区、加美地区、栗原地区、東松島地区、登米地区、南三陸地区

2 推進連絡協議会について

各推進地区では、推進連絡協議会を立ち上げ、志教育の推進を図りました。

※推進連絡協議会の構成員：事務局は当該教育事務所（地域事務所）に設置

当該市町村教育委員会担当者、推進校の担当教員、当該教育事務所（地域事務所）指導主事、高校教育課指導主事（必要に応じて）

3 推進地区の取組内容について

推進地区では推進連絡協議会を中心に、以下のような取組を実践しています。

- ・推進地区内の実践目標の設定と実施方針の決定
- ・小・中・高等学校及び特別支援学校の連携の在り方の検討
- ・各校種の取組についての情報交換及び全体計画の調整
- ・家庭及び地域と連携した事業展開の在り方についての検討及び実施
- ・事例発表会の企画及び実施
- ・講演会及びフォーラム等の企画並びに実施（事例発表会と併せて開催）
- ・実践事例報告書及び実施報告書の作成
- ・その他志教育の推進・普及のために必要な取組

4 各推進地区の事例発表会について

推進地区名	中学校区	開催日	開催場所
川崎町地区	川崎中学校区 富岡中学校区	平成27年 1月 16日	川崎町山村開発センター
松島町地区	松島中学校区	平成27年 1月 16日	松島町立松島中学校
加美地区	中新田中学校区	平成27年 2月 6日	加美町中新田パッパホール
栗原地区	栗駒中学校区	平成27年 1月 15日	栗原市みちのく伝創館
東松島地区	鳴瀬未来中学校区	平成27年 1月 21日	東松島市立鳴瀬未来中学校
登米地区	登米中学校区	平成26年 11月 27日	登米市立登米小学校
南三陸地区	志津川中学校区	平成27年 1月 23日	南三陸町ベイサイドアリーナ

★ 各地区では、平成26年度以降も特性に応じた取組を推進していく予定です。

川崎地区：川崎中学校区・富岡中学校区の取組

【推進校】

川崎町立かわさきこども園 川崎町立富岡幼稚園 川崎町立川崎小学校 川崎町立川崎第二小学校
川崎町立富岡小学校 川崎町立前川小学校 川崎町立川崎中学校 川崎町立富岡中学校
宮城県柴田農林高等学校川崎校

【目標】 川崎町志 18年教育～学びの架け橋レインボープラン～

町内の各園・小・中・高等学校の各校種が家庭及び地域と連携して、人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えながら、現在や将来においてよりよい生き方を主体的に求めていく子どもを育成する。

【取組の概要】

「支倉豊年踊りの伝承」保存会と富岡小、富岡中の囃し、踊り



高校生と園児の栽培活動交流会



1 幼・小・中・高18年間を見据え、義務教育の枠を超える長い視点で、川崎町が誇る園児・児童・生徒の健全な育成を図った。

2 18年間に渡る子育てプログラムを作成し、発達段階に即した継続的な指導を行う。川崎独自で作成した「かわさきっ子虹の架け橋子育てプログラム」を全戸に配布した。

3 「小1プロブレム」は「小1エンブレム」に、「中1ギャップ」は「中1ジャンプ」の言葉に置き換えられるような川崎らしい各校種間の接続を図る。



セカンドスクールでは、町内5年生全員が4泊5日蔵王自然の家で、登山や野外活動を行うことにより、協調性、責任感を持ち、自分の役割を感じ取ることができた。

【成果】

- 1 町の行事に積極的に参加することで、役割を果たした達成感が、自信となり、これからの自分の目標や将来像を描く礎となった。
- 2 0歳～18歳までの長いスパンで子育てに取り組むために作成した「子育てプログラム」は、学校、家庭、地域が一体となり、じっくりとあせらずに子育てに取り組むための具体的な指標と。
- 3 他校の子どもとの交流が視野を広げ、教育活動をより柔軟に行うことができた。

【課題】

- 1 18年間を通した生き方教育が継続できるように、「かわさきっ子虹の架け橋子育てプログラム」を家庭、地域において実践するための周知、啓発の方法。
- 2 川崎町の恵まれた自然や交通アクセスの良さを、町民全員が実感すると共に、家庭、学校、地域がその利点を常に実感できる環境の構築。

松島地区：松島中学校区の取組

【推進校】

松島第一小学校 松島第二小学校 松島第五小学校 松島中学校 宮城県松島高等学校

【目標】

人や社会とのかかわりの中で、社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求める未来の松島を担う、誇りと自信に満ちた児童・生徒を育成する。

テーマ：手を携え、ともに未来にはばたく松島っ子

【町内小学校6学年児童交流会】



松島町内3小学校の6年生が一堂に会しました。遊覧船で松島の風景を眺めてふるさと松島への誇りをもち、交流会で他校の同級生と触れ合うことを通じて互いの良さを知り認め合うことができました。

【実践の概要】

- ① 「志教育」の観点を押さえた各教科による授業の実践
- ② キャリア教育(職場体験学習)の推進
- ③ 歴史文化カリキュラムの実践
- ④ まつしま防災学の継続
- ⑤ ごみゼロ運動への参加
- ⑥ 小・中・高等学校間の学習交流

【中高職場体験学習発表の交流会】



職場体験学習で学んだことをお互いに発表しました。中学生には上級学校での学びに期待をもたせ、高校生は体験から得たことを確かにとともに自分の役割を果たそうとする気持ちを育むことができました。

【高校生から小学生への学習発表会】



高校生が作成した「子ども向け松島観光PR」を、小学校において発表しました。異年齢間のかかわりを通じて、互いに思いやろうとする気持ちを育てながら、「松島」についての理解を深めていくことができました。

【小中学習発表交流会】



松島町内3小学校の6年生と松島中学1年生が、授業(松島町歴史文化カリキュラムとの関連)で学習したことを発表し合いました。発表を通して、小学生は中学校生活への希望をもち、中学生は自己の役割や責任を果たすことで自信をもつことができました。

【成果】

- (1) 志教育の実践を各校で共有することができ、実践に広がりをもたせることができた。
- (2) 小中高の学習交流を「かかわる」「もとめる」「はたす」の3つの視点に沿った活動を展開することによって、児童生徒はお互から刺激を受け、また認め合い、自分の果たすべき役割を考えさせなが、自信を持って活動できるようになった。

【課題】

- (1) 今年度の取組を基に、今後も松島中学校区の5校が志教育の更なる連携、継続、連続を図る。
- (2) 志教育の取組の様子を地域に発信するとともに、地域の人材を積極的に活用し、地域と協働しながら志教育の推進にあたる。

加美町地区：中新田中学校区の取組

【推進校】

加美町立中新田小学校、加美町立鳴瀬小学校、加美町立広原小学校、加美町立中新田中学校
宮城県中新田高等学校

【目標】

小・中・高の全時期の連携を通して人や社会とかがわる中で、望ましい社会性や勤労観を培い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、児童生徒が社会でよりよく生きるための力を育成する。

【取組の概要】

- (1) 1学期
 - ① 第1回中新田中学校区連絡協議会（5月19日：中新田中）
設置要項及び組織及び年間事業計画の協議
 - ② 第2回中新田中学校区連絡協議会（6月24日：中新田中）
事業計画、研究テーマ、交流会の内容等について検討
- (2) 2学期
 - ① 第3回中新田中学校区連絡協議会（8月26日：中新田小）
各部の進捗状況の確認と小・中・高の交流会について検討
 - ② 3小学校6年生の交流会（10月7日：中新田小）
交流ゲーム、各校の志教育活動等の紹介
 - ③ 第4回中新田中学校区連絡協議会（10月15日：鳴瀬小）
3小学校交流会の報告・反省、小・中交流会、事例発表会等の検討
 - ④ 小中交流会（11月18日：中新田中、3小学校）
中学1年生が3小学校に行き、授業のアシスタント
小学6年生が中学校に来て、授業体験や部活動体験等
 - ⑤ 第5回中新田中学校区連絡協議会（12月5日：大崎合庁）
小中交流会の報告・反省と事例発表会等の内容・スケジュールの検討
- (3) 3学期
 - ① 中新田中学校区連絡協議会「事例発表会」（平成27年2月6日：中新田バツハホール）
「中新田の志教育」、小・中・高等学校の事例発表等
 - ② 第6回中新田中学校区連絡協議会（2月24日：大崎合庁）
「事例発表会」及び平成26年度事業の反省と平成27年度事業計画の検討



《小小交流》



《小中交流》



《事例発表会》



《事例発表会》

【成果】

- (1) 交流活動を通して、「かかわる」ことや「はたす」ことの意味を改めて確認し、学校生活に意欲をもつことができた。
- (2) ふるさとを見つめ直し、ふるさと中新田で学んでいるという意識が更に強くなった。
- (3) 教職員の連携意識の高揚に繋がった。

【課題】

- (1) 異校種間においてより創意ある交流活動や地域の特色ある取組や実践。
- (2) 更なる地域を巻き込んだ志教育の実践や情報発信等。

栗原地区：栗原市立栗駒中学校区の取組

【推進校】 宮城県岩ヶ崎高等学校 栗原市立栗駒中学校 栗原市立栗駒小学校
 栗原市立栗駒南小学校 栗原市立鶯沢小学校

【目 標】

将来の社会人としてよりよく生きるため、自分を取り巻く人や社会とかかわる中で望ましい社会性や勤労観を養うとともに、しっかりとした「夢」や「志」をもった児童生徒を育成することをねらいとして以下のことに取り組む。

- (1) 異校種間の連携による「志教育」の円滑な推進を図る。
- (2) 発達段階に即した「志教育」を推進し、児童生徒相互の信頼関係を築き、望ましい学びの主体性や職業観・勤労観を育成する。
- (3) 推進地区内の各校の連携を密にし、児童生徒に望ましい「志」を持たせていくため、家庭及び地域社会との連携の在り方を探る。



【高校生による栗っ子ティーチャー】

【取組の概要】

- (1) 推進地区連絡協議会の設置及び運営
- (2) 地域、幼・小・中・高等学校との連携
- (3) 「みやぎの先人集」を活用した授業
- (4) 志教育年間指導計画の作成
- (5) 児童生徒交流発表会の実施
- (6) 事例報告書の作成



【児童生徒交流会でのインタビュー】

【成果】

本事業の取組をとおして、各学校で「ふるさと」を基盤とした志教育を進めてきた。そして、ふるさとに関わる活動内容を、伝統・文化、環境、人という観点で整理した。児童生徒の成長は、小・中・高等学校の学びの連続性の中で、これらの活動をとおして育まれると捉え本事業に取り組んできた。

また、各学校においては、既存の年間指導計画を踏襲するのではなく、異校種や地域との関わりの中でふるさとに視点を置いた「ふるさとを見つめ・語り合い共に未来へ 年間活動計画」を作成した。これにより、それぞれの学校では、各学校と地域との関わりが明らかになり、異校種間の学びの連続性が再認識され、連携がさらに図られるようになった。

	地域連携の例	異校種連携の例
栗駒小	・地域清掃 ・名人に学ぶ	・幼稚園との交流会
栗駒南小	・災害に強いまちづくり ・地域めぐり	・栗っ子ティーチャー ・職場体験学習
鶯沢小	・ふるさとの藍染め ・文字甚句をおどろう	・ようこそ先輩・課外授業 ・鶯沢幼稚園児体験入学
栗駒中	・栗駒ドリームカンパニー ・福祉体験学習	・高校生の先輩の話を聞く会 ・岩ヶ崎高校訪問
岩ヶ崎高	・くりこま山車祭り	・オープンスクール ・教職希望者による実習Cプラン

【課題】

本地区が推進してきた活動は、これまでも行ってきた内容を、連携、連続、継続する志教育として見直しを図ったものである。今後、これまで以上に、小・中・高等学校が連携を密にし、情報交換を重ねながら、ふるさとに根ざした志教育の在り方を追究していきたい。

平成26年度宮城県志教育支援事業（推進地区指定）

東松島地区：東松島市立鳴瀬未来中学校区の取組



小・中・高生のあいさつ運動

【推進校】

- ・東松島市立鳴瀬桜華小学校
- ・東松島市立宮戸小学校
- ・東松島市立野蒜小学校
- ・東松島市立鳴瀬未来中学校
- ・宮城県東松島高等学校
- ・宮城県石巻西高等学校

【目標】

- ・志をもって地域のためによりよい生き方を主体的に探求する児童・生徒を育成する。
- ・人や社会とかがかわる中で自己の果たす役割を考え、社会性や勤労観を養う。

【取組の概要】

1 取組方針

鳴瀬未来中学校区において小・中・高の連携を図り、「つながろう わがふるさと」のテーマのもと、志教育の「かかわる」「はたす」「もとめる」の3つの視点に「つなげる」を加え、志をもって自立していくために必要な力を育む実践を展開していく。また、震災の影響が大きかった校区であることから、地域のよさを理解させ、将来の鳴瀬地区の活性化に向けて「豊かな心」「確かな学力」「健康な体」「生徒指導」の4観点を中心に各校が教育活動を展開していく。

2 実践の概要

(1) 「確かな学力」部会（部会長：野蒜小学校長，各校教務主任担当）

- ① 小・中・高の授業研究（教員授業交流，高校教員の授業，異校種授業参観）
- ② 小・中・高連携した学習環境整備（学習のてびき活用，家庭学習の進め方の共通理解）
- ③ 小・中教員研修会（学力向上に向けて，家庭学習の取組強化の研修会を実施した。）

(2) 「豊かな心」部会（部会長：鳴瀬桜華小学校長，各校教頭，児童会・生徒会担当）

- ① 「心あったかイトころ運動」・・・あいさつ・清掃・ごみひろい活動の実践
- ② 読書・読み聞かせ活動（小・中・高の連携による実践）
- ③ 道徳の授業の充実（志教育の視点に基づいた道徳や特別活動の実践）
- ④ あいさつの意識調査を年2回，4校で実施し，あいさつ指導の充実を図った。

(3) 「生徒指導」部会（部会長：鳴瀬未来中学校長，各校生徒指導担当）

- ① 鳴瀬地区小学校の生活規律を作成（命・時間・言葉・もの・仲間に関する約束事）し，共通理解のもとに中学校に繋げる取組を各校行った。
- ② 小・中相互の授業参観・情報交換会の実施

(4) 「健康な体」部会（部会長：宮戸小学校長，各校体育主任担当）

- ① 長縄跳び・二重跳びの推進（Web上にエントリー，中学校の運動会で集団長縄跳）
- ② 運動能力的課題への小・中連携による対応の検討を実施した。
- ③ 生活習慣と体力テストとの関連性の調査を行い，分析し傾向をつかんだ。

(5) 東松島市「志教育講演会」の実施

平成26年12月24日（水） 講師：石巻専修大学教授 木村 民男 氏

(6) 鳴瀬未来中学校区「志教育発表会」

平成27年1月21日（水） 会場：東松島市立鳴瀬未来中学校 体育館

(7) 防災教育関係

- ・「BOSAIミライ交流 in SUWA」長野県諏訪市への小中高生防災交流（2泊3日）
- ・「シンサイミライ交流会」山口県の中学生32名を受入 会場：石巻西高校（2泊3日）

【成果】

- 1 「かかわる・もとめる・はたす・つなげる」の視点を生かした授業づくりに取り組み，児童生徒が相互のつながりを意識し，互いのよさを認め合う姿が多く見られるようになった。
- 2 小・中学校の9年間を見通して「鳴瀬地区の小・中学生の生活」の生活規律を作成し，小学校から中学校へ一貫した指導の基礎を築くことができた。

【課題】

- 1 小・中・高の連携を大切にし，継続して活動していけるよう計画・実践を重ねていく。
- 2 ふるさとのよさを伝える教育実践の充実及び地域への発信をしていく。

平成26年度宮城県志教育支援事業（推進地区指定）

登米地区：登米中学校区の取組

【推進校】登米市立登米小学校 登米市立登米中学校 宮城県登米高等学校

【目標】

小・中・高等学校及び地域との連携のもと、多くの人々とかかわり（かかわる）、自己を高め（もとめる）、社会や集団の中での自己の役割を果たしていく（はたす）ことを通して、夢へ向かって歩いていく志をもった児童・生徒を育てる。

【取組の概要】

テーマを「とよまの志教育～歴史と文化の町 登米 未来へつなぐ志～」と設定し、以下3点を実践の軸にして取り組んできた。

- (1) 人や社会と「かかわる」活動の中で自己理解を深めさせるために、自分自身のよさや適性に気付かせることを意図した活動を設定する。（米作り体験、祖父母とふるさと学習、環境教育、キャリア学習…）
- (2) 自己有用感を味わわせ、高めていくために、諸活動の中で「はたす」経験をもたせることを意図した活動を設定する。（文化財校舎・町内の清掃、高校生による読み聞かせや部活動交流、インターンシップ…）
- (3) 「地域に生まれ、地域で生きる」という点を踏まえ、地域や保護者と連携した活動を展開する。（とよま能、植樹、B1グランプリ参加、地域の産業・偉人を取り入れた授業、志教育講演会…）

〔実践事例発表会、志教育講演会〕



小5家庭科「めざせ！『みそ汁名人』」（地域の味噌作りの方を講師）



中2学級活動「志を立てよう」（高校の先生とのT・Tによる）



児童・生徒代表と地域の方によるシンポジウム

【成果】

- (1) 2年間の意識・実態調査による児童・生徒や保護者の実態把握と経年比較により、各学校において「自己有用感」の伸びが見られた。
- (2) 小・中・高等学校間の連携により、教職員間の情報交換や交流、児童・生徒間の交流活動の推進が図られた。
- (3) 学校便りや学校ホームページでの情報発信、リーフレットの全家庭配付等により、志教育について保護者に啓発することができた。
- (4) 「志教育推進協力者会議」等の開催により地域の方の助言をいただきながら、地域との交流の促進並びに連携を強化することができた。
- (5) 志教育講演会の開催により、日本人や日本の歴史や文化を改めて見つめ直すことができた。
- (6) 実践事例発表会の開催により、授業における志教育実践の在り方を提案することができた。また、シンポジウムを通して、2年間の志教育の成果を確認し、県内に広く発信するとともに、児童・生徒にとっては生き方を考える機会となった。

【課題】

- (1) 自己理解と自己有用感の育成を意識しながら実践を継続していく。小・中・高等学校間の連携、交流について今後も継続できるようにする。
- (2) 保護者・地域の方々へさらに積極的に広報活動を行い、志教育の理念を共有していく。



伊達宗弘氏を講師に旧登米高等尋常小学校で志教育講演会を開催

南三陸町地区：志津川中学校区の取組

【推進校】志津川小学校・戸倉小学校・入谷小学校・志津川中学校・志津川高等学校

【目標】『手を取り合い未来へ』

小・中・高が連携し、地域との関わりを通して、志をもち、震災復興と将来の南三陸町を支える児童生徒を育成する。



【概要】

(1) 1 学期

- ①昨年度の成果と課題の検証・1年間の事業計画の吟味，検討。
- ②「志教育」年間指導計画の吟味と連携についての検討
- ③研究協議会・情報交換



(2) 2 学期

- ①職場体験学習，地域行事（「福興市」・文化的行事等）への参加
- ②小学生と中学生，中学生と高校生，小学生と高校生の交流（ゲストティーチャー，生徒会交流他）
- ③研究協議会・情報交換



(3) 3 学期

- ①事例発表会・講演会の開催
- ②研究協議会・研究のまとめ



学校名	発表内容（事例発表会）・主な実践事例
戸倉小学校	4年 養蚕「お蚕様の秘密を探ろう」 5年 「海に生きる～戸倉の海と川を見つめよう」
入谷小学校	4年 5年 6年 「入谷打囃子を伝えよう」 5年 「米作りを体験しよう」
志津川小学校	1年 「いきものいっぱい～志津川の民話を聞いて～」 3年 「あったかハート大作戦」 5年生「南三陸町の海を見つめ直そう」
志津川中学校	2年「職場体験」 1・2・3年「森里海連環学」・『福興市』参加
志津川高等学校	「ジュニアインターンシップ」～地域のために～ 「ビジネスへの挑戦」～インターネット商品取引～

こちらの HP でご覧下さい。
宮城県南三陸教育事務所
<http://www.pref.miyagi.jp/sosiki/mskyoz>

【成果】

- 震災以前に存在していた自然の恵みによる産業・歴史・文化，それらを復活させようという地域の人々の思いに触れ，地域の力を再認識し，児童生徒の「心の復興」につながった。
- 「町を元気にする」「町の人たちの力になる」等の使命感が自己有用感・主体的な生き方の探究，人間関係を構築するための社会性を養うことにつながった。
- 異校種交流によって，進路への意欲や中1ギャップの解消につながった。
- 地域の良さを知り，地域を愛する心情の育成は，地域再生の担い手としての意識の向上につながった。

【課題】

- 職場体験先の確保と，小・中・高の連携を図った活動を行う際の移動手段の確保等を円滑に行うこと。
- それぞれの発達段階における，志教育で育成した児童生徒の変容を引き継ぐ効果的な手立ての確立。